

牛久：学校周辺に見る自然

第12号 牛久二小

2011年5月27日発行

＜ ビオトープ周辺の観察から ～ 春から夏へ：②鳥とカエル ＞

5/20、牛久二小3年生のビオトープ^{かんさつ}観察の続きです。今回は鳥とカエル。

(1) シジュウカラ



むね^{むね}から^{はら}腹にかけて見られる黒いネクタイのような模様と、^{ほお}白い頬が特徴の留鳥（一年中、日本にいる鳥）で、学校や公園などの植栽^{しょくさい}にもよく来ます。昆虫やクモ、植物の種子、果実など、いろいろなものを食べるようです。また、エサ採り中の他の鳥を追い払ったり、コガラやヒガラなど他の鳥のたくわえた種子^{うば}を奪って食べることもあるそうです。



じゅどう^{じゅどう}いしがき^{いしがき}のすき間などにコケなどを運び込んで、お椀型の巣をつくりませんが、人のつくった巣箱もよく利用します。

上：二小ビオトープの林に3羽で来た。

下左：胸のネクタイが特徴(2009/2/18, 牛久自然観察の森)

下右：木の幹にかけられた巣箱(2008/10/9, 牛久自然観察の森)

(2) ヒキガエル



まだ体長1cm以下の子ガエル



ヒキガエルの模様が現れ始めた子ガエル

カエルは「^{りょうせい}両生類」といい普通水の中で暮らす時期と陸上で暮らす時期がありますが、その割合はそれぞれで、ヒキガエルは交尾、産卵と幼生（オタマジャクシ）の時期のみ、水中で暮らします。メス1匹あたり2千～2万個の卵を産むといわれ、春に黒いかたまりのように群れていたオタマジャクシはすべて子ガエルになり、私たちが近づくと、いっせいにピョコピョコはねていましたね。まだ体長1センチ以下、親ガエルの姿からは想像もつかないくらい小さいのが不思議でした。より成長したものほど茶色っぽくなり、ヒキガエルらしい模様がうっすら現れているものもいましたね。そして池の中には、ヒキガエルにかわりトウキョウダルマガエル？の幼生がいました。【理科支援員 宮内】



比較的大きなトウキョウダルマガエル？の幼生